

移住 & Uターン わたしたちの生き方



世代を受け継ぐ、ものづくりを

山田建具店 三代目 山田 輝人さん

創 業57年、無垢の木製建具を中心に製作する建具屋を営んでいます。「かつて越生では西川材と呼ばれる地場産材を活用した木工業が盛んで、そこに携わる会社は150社以上にのびるんだ」と父は言います。今では建具屋さんも少なくなりましたが、祖父の時代から継承される建具づくりの技術や姿勢を受け継ぎたいという思いで、東京からUターンし、一から学びました。

完全受注生産の建具づくりは、素材やデザインも様々。オーダーに対して最適な作り方を考えていくことから始まり、仕上げのカンナを何回掛けるかまで、一つとして同じ例のない繊細な作業です。サイズの正確性はもちろん、木の艶や表情まで

こだわります。要望に応え、一切妥協せず、ちゃんとやる。これが祖父から教わったものづくりの姿勢です。

作り手として、これからの時代に向けて考えていることは、「捨てられない建具」づくりです。仕事中心に、古い家から大正時代に作られた襖を見つけたことがありました。良い建具とは長い年月を経ても狂うことなく、世代を超えて使えるものだと、そのとき確信しました。たとえ家が古くなり、リフォームをすることになっても、この建具は次の家でも使いたいなと思ってもらえるようなものを作りた。できるだけ長く使ってもらえるように工夫したい。目指すのは、世代を受け継ぐものづくりです。



建具や家具の他に、地域で使用される木製看板を制作するなど町の景観づくりに貢献しています。

結

婚を機に移住する前に、越生の民俗芸能であるお神楽に出会いました。20代や30代の方も活躍する、その勇ましい舞に感動し、絵にしました。民族衣装や伝統的な模様が好きで、学生時代から民俗芸能「江戸の里神楽」を題材に100枚以上の絵を描いてきました。移住後も活動を続けていて、地元神社の神楽のポスターを描いたり夏の越生まつりで展示をしたりしています。またお神楽のことを、皆さんに親しみやすくも伝えるように、演目のお話をわかりやすくまとめた絵本を作って配っています。越生には立派な山車が曳き回される越生まつりや、各町内の獅子舞など、楽しめる伝統芸能がたくさんあるので、今後もそれを広めていきたいです。

東京から一番近い自然ある暮らしを求めて

東京で美容サロンと植物店を経営
石井 和昭さん



大好きな植物のために温室を作った石井さん



都 内に仕事で通いながら、自然が豊かな場所に住みたいという思いから家族で移住しました。十分な広さの土地に家を建て、趣味であり仕事でもある植物のための温室を作ったり、畑作りにチャレンジしたりと、都内ではできなかった暮らしの力スタムを楽しんでいます。子どもたちは野遊びから多くを学び、季節で移ろう山の景色を気に入っています。近所の人に気軽に声をかけてもらい、子連れでバーベキューを楽しんだり、地域に自然と溶け込めていけたことが本当にありがたいことです。現在では消防団や学校のPTA、地域の行事にも積極的に関わっています。小さな町だからこそ、一緒にやろうという思いで支え合う、地域の輪がある町だと感じています。

地域の伝統芸能を楽しんでもらうために

画家
栗田 知佳さん



地元神社で行われる江戸の里神楽の演目「紅葉狩り」の作品



移ろう山の景色を気に入っています。

入っています。近所の人に気軽に声をかけてもらい、子連れでバーベキューを楽しんだり、地域に自然と溶け込めていけたことが本当にありがたいことです。現在では消防団や学校のPTA、地域の行事にも積極的に関わっています。小さな町だからこそ、一緒にやろうという思いで支え合う、地域の輪がある町だと感じています。

越

生と関わる人が増えてくれたらという思いからその入口になる場所として「奥武蔵エリアの魅力のなものが集まる市場」というコンセプトでカフェを開業しました。店内では薬膳ごはんや特産品を使ったデザートなど、自然派で健康志向のお食事が楽しめます。都内からUターンした私は、五感で感じる町の魅力に改めて

気づかされました。鳥のさえずりや、川の音。木々の香りに、梅やゆずの癒しの香り。この自然を感じる環境と体に優しい食事を通して、心身が健やかに成るような時間を提供できたらと思います。日々抱えている課題を一旦手放し、ゆつくりと時間を過です。町全体がそんなセラピーのような場所になれる可能性を感じています。

町の魅力を多くの人に知ってもらいたい

オクムサ・マルシェ オーナー
浅見 敦さん



越生周辺の「知りたい」が集まる場所、オクムサ・マルシェ

